



『みらい楽』ってどんなことをしているの？

生徒たちが自ら進んで課題を設定し、情報を集め、分析し、問題を明らかにしたり、周囲の人と意見を交換したりしながら、問題を解決するためにどのようなことをするのがよいのかアイデアを出し合います。調査活動では、実際に現地を訪れ、自らの目や肌で課題を感じます。研究交流発表会では、グループで考えたアイデアを、多くの人たちの前で発表し、改善点や評価を伝えてもらい、更なる改善につなげます。実際にアイデアを実行し、効果を検証することもできます。みらい楽の活動の原動力は、もっと社会を良くしたい、自分たちの手で地域の課題を解決したいという生徒一人ひとりの熱い思いです。



中2 みらい楽の様子

由良川との地域共生 琵琶湖の取組から学ぶ



由良川を活かしてまちをよりよくするために、私たちには何ができるだろう。由良川が流れる福知山と同じく水との関係が深い琵琶湖周辺では、琵琶湖を活かしたまちづくりが様々に行われています。琵琶湖博物館の見学や近江八幡市のガイドさんのお話から、自分たちのまちづくりに活かせることを考えていきます。

歴史・生物・水質・防災・食産業・広報・地域住民との関わりなど8つのテーマに分かれてグループで活動しています。

滋賀県立琵琶湖博物館・近江八幡フィールドワーク



私たちの班は、効果的な広報の仕方について調べています。琵琶湖博物館には模型を使って、琵琶湖と他の湖の大きさを比較できるような展示がありました。大きさを体感でき、わかりやすいと感じました。近江八幡市は、江戸時代や明治時代の建物が残る街並みがとても印象的でした。インターネットでは見つけられなかった、その地の歴史や建物についての説明をガイドさんから詳しく聞くことができ、とても興味深かったです。実際にその地に行き、体験することの良さを感じました。この学びを由良川の広報にもつなげていけるように活動していきたいです。

中3 みらい楽の様子

地域課題 × SDGs 亀岡市の取組から学ぶ



プラスチックごみゼロ社会を実現することは可能なのか。亀岡市ではレジ袋禁止条例に加え、プラスチックごみゼロ宣言を出しました。不可能に感じるこの目標にどのようなアイデアで取り組んでいるのか。様々な取組やまちの人々の声から亀岡市の挑戦の実態を調査しました。今回の学びを今後の福知山を中心に京都府北部の地域課題をテーマに課題解決型学習に取り組んでいきます。

6月18日(金)に、環境先進都市を目指す亀岡市の取組を知ろうと、市役所より担当者をお招きし特別講演会を実施しました。

保津川エコna川下り体験&亀岡市内フィールドワーク



保津川渓谷にはきれいな自然と様々な生物が生息していることを知りました。川下りは楽しかったけれど、途中ごみ拾いをしたとき意外にもごみが多くて驚きました。せっかくの景観が台無しになってしまっていると感じました。午後を訪れた亀岡市内のKIRI CAFEでは、HOZUBAGの制作に携わっている方からお話を聞くことができました。「オシャレしたい年頃の学生には、我慢せずごみを減らせるようなアイデアを出してほしい。」とおっしゃっていました。僕たちだからこそ考えられるアイデアでごみを減らす工夫ができればと思いました。

過去にはこんなことにも挑戦

《2019年度3年生のみらい楽の活動内容》

福中スイーツ福袋 企画、販売



福知山を自分たちの力で元気づけ、活性化させようと課題を設定し、福知山の美味しいスイーツを組み合わせた福袋を販売して多くの人に福知山の良さを知ってもらうアイデアを出しました。このアイデアを市内の菓子店に説明にまわるなど営業活動を行い、協力して下さるお店を探しました。さらに、クラウドファンディングで活動資金を集め、福袋のデザイン、発注、広報、販売の全てを附属中学生が行いました。大丸京都店での販売も実現させ、福知山の魅力を広く伝え、福知山の活性化につなげました。



クラウドファンディングで47万7千円の資金を集めました。(130%達成)

生徒会活動



1学期末に全学年が集い、感染症対策を講じながら2年生主催のクイズ大会を行いました。学年を交えて生徒から出題された問題に協力して取り組み、楽しみました。1学期は、他学年と交流する機会がなかったので、みんなが集まり顔を合わせて話をするのがとても新鮮に感じられました。自然と笑みがこぼれ、ほっこりとした温かい時間を過ごすことができました。

その後、2学期に行われる体育祭に向けて応援団の色決めを行いました。赤・青・黄に分かれて縦割りの集団で競技にのぞみます。体育祭リーダーを中心に活動を進めていきます。

部活動



陸上競技部
6月20日(日)
中丹総合体育大会
陸上競技部

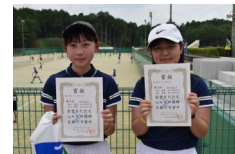


ソフトテニス部
7月4日(日)
テニスまつり



11種目に14名が出場し、4名の選手が府陸上大会への出場を決めました。

- ・共通走幅跳 3年
- ・共通走幅跳 3年
- ・共通800m 3年
- ・共通砲丸投 3年



1年生にとっては初めての公式戦でした。総体に向けて良いスタートができました。

- ・女子下級の部 3位入賞
2年 ベア

附属中1期生にインタビュー



中学ではソフトテニス部に所属し、部長を務め、高校ではバドミントン部のエースとして活躍しました。大学では部員数120名を超えるラクロス部に所属しています。高校2年生の時の文化祭でライオンキングの主演シンパを演じるなど、意欲的に挑戦し続ける学校生活を過ごしました。

Q1.大学生活をどのように送っていますか？

対面授業とリモート授業が半々くらいあります。ラクロス部に入学し練習に励んだり、週に2〜3日はアルバイトをしたりと忙しくも充実した日々を過ごしています。コロナ禍の大学生活ですが、すぐに友達もできて、思い描いていた通りの大学生活を送っています。ただ、大学の勉強は難しいなと思います。そこは想定外でした。

Q3.附属中3年間を振り返ってみてください。

何よりも部活動に熱中していました。勉強の方は、苦手な英語は放置し過ぎたなと思います。高校に入学してから苦労しました。でも、数学は中学1年生の時にこれではダメだなと思い直し、授業→復習の学習サイクルを徹底させ、中学2年生の時には数学が一番得意となりました。大学受験でも数学が得点源になったのは間違いありません。

Q2.どうして名古屋大学経済学部に進学したのですか。

数学が得意だったので経済学部に進学しようと思っていました。大阪大学と名古屋大学のどちらかで迷っていたのですが、入学試験の配点が名古屋大学の方が自分に合っていると感じ名古屋大学に決めました。

Q4.中高一貫校で過ごした6年間はどうでしたか。

高校進学後は外部進学生とも仲良くなり、お互いに刺激し合いながら勉強や部活動などを充実させることができました。やはり6年間共に過ごした1期生の仲間とはつながりも強く、大学進学で全国に散らばった1期生との仲間とも連絡を取り合うなど変わらない関係が今も続いています。

1期生の主な合格実績

国公立大学 27名		医学部医学科 1名		私立大学	
国際教養大学 1名	京都教育大学 1名	神戸大学 1名	立教大学 1名	立命館大学 6名	
東京農工大学 1名	京都府立大学 1名	岡山大学 1名	東京理科大学 2名	関西大学 3名	
浜松医科大学 1名	京都工芸繊維大学 1名	広島大学 1名	同志社大学 3名	関西学院大学 2名	他
名古屋大学 1名	大阪大学 3名	九州大学 1名	他		

令和3年度 第1回学校説明会 令和3年10月3日(日)

場所：本校視聴覚教室他 内容：授業見学や入学者選抜等について

開始時間：9時15分(受付8時45分～)

参加対象：小学校4年生以上の児童

申込方法は9月頃ホームページ等にてお知らせいたします。

※ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては日程や内容を変更することもあります。

HPにて附属中動画公開中



京都府立福知山高等学校附属中学校

京都府福知山市字土師650 Tel. 0773-27-2151
ホームページ <https://www.kyoto-be.ne.jp/fukuchiyama-hs/>
メールアドレス fukuchiyamafuzoku-jhs@kyoto-be.ne.jp

生徒の個性を見つけ、伸ばす6年間

